2000円札 なぜ目にしない？

「授業で先生がちょうど10年前の2000年に二千円札ができたって教えてくれたけど、見たことないわ」。事務所で小学生の伊野辺詩音が尋ねた。「僕もしばらく使っていないな」と探偵、松田章司。「よし、調べてみよう」

なじみ薄い「2」の付くお金

2人はお札を発行する日本銀行に聞きに行った。世の中に出回る二千円札は3月末時点で1億1000万枚。一万円の71億枚、千円の36億枚よりはるかに少なく、お札全体の中で二千円札の比率は0・9%だ。

レジでも用意せず

二千円札は00年7月に登場した。あまり使われないため、日銀は04年度から印刷していない。「でも1億1000万枚もあるならおおむね1人1枚持っている計算だからもっと目にしてもいい気がするけど」

章司は大手銀行に尋ねてみた。両替は応じているが、お金を出し入れするATMで二千円札を引き出せるのは三井住友銀行だけで、しかも全国で十数カ所のみ。スーパーも「レジにおつりとして用意していません」（イトーヨーカ堂）。

コンビニエンスストアのATMでも二千円札はなかった。ローソンの杉原弥生さん（33）は「昔は二千円を扱っていましたが、今は沖縄にある23台を除いて一万円と千円を入れているだけです」と話した。

「せっかく新札を発行したのにもったいないわ」。口をとがらせる詩音に日銀の徳高康弘さん（36）は「2で始まるお札になじみが薄いことが理由かもしれません」と話してくれた。日本にも昔は二百円札などがあったが、二千円札が出るまで50年以上、日本では2のつくお札が造られておらず、それが普通になった。

おつりで便利？

でも二千円札があれば、財布のお札が少なくなる。例えばレジで一万円札を出して9000円のおつりがある場合。全部千円札なら9枚、五千円と千円なら5枚になるが、五千円と二千円なら3枚で済む。

海外では2のつくお札は珍しくない。英国はお札全体の約6割が二十ポンド紙幣だし、米国も二十ドル札が約4分の1ある。どちらもさらに小さいお金の単位に直すとどうなるか。1ポンドは100ペンス、1ドルは100セント。「二十ポンドなら2000ペンス、二十ドルは2000セントだな。この数字は確かに重宝するな」と章司はうなずいた。

「この効果は理論的にも確かめられています」と一橋大教授の北村行伸さん（53）が声をかけてきた。

「じゃあ、数字を使ってハッキリさせてみましょう」

てんびんで1グラムから40グラムまで1グラムずつ量ろうとすれば、何個の重りで済むのかという有名な数学の問題がある。答えは1グラム、3グラム、9グラム、27グラムの4つ。例えば22グラムの塩を量る時はAの皿に27グラム、3グラム、1グラムの合計31グラム、反対のBの皿には9グラムを置く。Bの皿に塩を徐々に載せて釣り合うのは31から9を引いて22グラムだ。

1、3、9、27というのは1から次々3をかけた数。より重い物でも3をかけた数の重さを用意すれば自在に量れると証明されているそうだ。「この考え方はお金にも応用できます」

例えば一円玉のほか三円玉、九円玉、二十七円玉……と用意すればお金のやりとりが一番減らせる。「そんなお金は実際にないし、あっても計算が難しいわ」と詩音がこぼすと「お金は十や百ずつが計算しやすいから、5や10で割り切れる近い数字を選んでもいいですよ」。3なら五円、9は十円、81なら百円、729は五百円と千円……。「あら実際の日本のお金じゃない」と詩音が目を見張った。「2187なら二千円か」。章司は叫んだ。

「日本は千円から五千円の間がだいぶ空いていました」と北村さんが補った。二千円札の登場で理論に近くなり、十、二十、五十ドル札があるドルと同じ数字の並びになったわけだ。

紛らわしいと不評

だが現実には二千円札は普及していない。「二千円札が出たころ、大きさや色がほかのお札と紛らわしいという不満が多かったな」と章司が当時を回想していると法政大准教授の平田英明さん（36）が助言してくれた。「財布の中で分かりやすいよう、人はお金の種類を少なくしがちです」

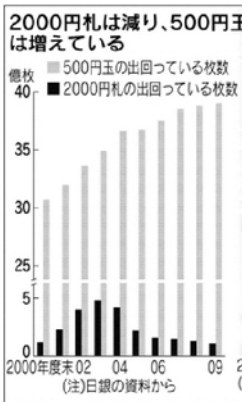
英国は上位3種類のお札で全体の93%、米国は81%を占める。日本も一万円と千円で8割以上。五百円札があった1982年3月末に、お札の割合は千円（32%）、一万円（28%）、五百円（10%）、五千円（3%）の順だった。五百円札は造られなくなったが、それでも二千円札が入り込む余地は少なかったわけだ。

「謎は解けたね」と満足顔の章司の横で詩音がつぶやいた。「硬貨でも同じことがいえそう。さっき3を次々かけていった時に243という数字が出てきたから、二百円か二百五十円玉があっていいはずよ」

このひらめきに一橋大の北村さんは「理論的には間違っていませんよ」とほめてくれた。ただ種類が増えると管理が大変だから実際は造られないのだという。

事務所に戻った詩音はうれしそうだった。「経済の勉強のはずが算数もできて得した気分よ」（初田聡）

2000円札は銀行窓口で見かける程度に（東京都千代田区の三井住友銀行本店）



（注）日銀の資料から

支払いに必要なお札の枚数は？

	2000円札があれば…		2000円札がないと…	
2000円	2000円札	①	1000円札×2	②
3000円	2000円札+1000円札	②	1000円札×3	③
4000円	2000円札×2	②	1000円札×4	④
5000円	5000円札	①	左と同じ	①
6000円	5000円札+1000円札	②	左と同じ	②
7000円	5000円札+2000円札	②	5000円札+1000円札×2	③
8000円	5000円札+2000円札+1000円札	③	5000円札+1000円札×3	④
9000円	5000円札+2000円札×2	③	5000円札+1000円札×4	⑤

（注）丸数字は必要な枚数

理論通りなら もっと普及

ケイザイのりくつ

「昼食も硬貨1枚」500円の地位向上

お札から硬貨に替わった500円の〝価値〟が上がっている。電子マネーの普及で一円～百円玉の枚数が減る中、五百円玉の枚数だけが増えているのだ。背景には「景気低迷で五百円玉1枚で事足りるモノやサービスが広がっている」（電通総研）ことがある。

ファミリーマートが売る弁当の95%は500円未満。百貨店の松坂屋銀座店（東京・中央）は500円ランチを始め、500円の料理教室も登場した。日本経済はモノやサービスの価格が下がるデフレの状態が長く続く。その影響で五百円硬貨の人気や使い勝手が高まっている。

掲載日 2010年6月12日 日本経済新聞 プラスワン 2ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。